

# 国 語 科

黒川 陸郎

端名 秀雄

岡崎 和美

研究協力者 折川 司(金沢大学)

## 1. ESDを進めるにあたって

本校国語科では、これまで「論理的な思考力の育成」をねらいとして研究を進めてきた。学校研究としてESDに関わる研究を進めるにあたり、持続可能な社会の形成者として必要な資質や能力として、「持続可能な社会を形成するための課題を、国語科で学習したことを使って解決する力と、国語科で学習したことを積極的に使おうとする態度」と捉え、その能力と態度を育成することとした。

次に、持続可能な社会づくりの構成概念Ⅰ～Ⅵの中から、「Ⅰ多様性」「Ⅱ相互性」「Ⅲ有限性」の三つが教科の学習と関連づけやすいと判断し、各学年からⅠ～Ⅲと結びつく具体的な教材を抽出した。

## 2. 能力・態度の育成にあたって

### (1) 中心的に扱う能力・態度について

学校研究の方針として、「ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度」のうち、特に「①批判的に考える力」「②未来像を予測して計画を立てる力」「③多面的、総合的に考える力」「④コミュニケーションを行う力」に関するものを扱うことになったが、国語科では①③④を中心に扱うこととした。

### (2) 従来の研究とのつながりについて

上記の①③④の力が、学習指導要領の国語においては、各分野のどのような力に相当するのかを考えた。また、その力を育成するための評価規準も対比させてみた。

その結果、「ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度」の育成は、国語科における思考力・判断力・表現力の育成と十分につながるものであると考えることができた。

### (3) 教材の「つながり」について

国語科の授業ではさまざまな分野の読み物を扱う。したがって、それらの作品の内容を広げてESDの題材につなげたり、他教科とつながりをもつことができる。

また、もう少し抽象的な部分では、教材の読み取りや作者のものの考え方、自分の考えの発信の仕方等を学ぶことによって、ESDの概念とのつながりが生まれてくるものと思われる。

具体的な実践の内容は「実践事例」の項で詳述するが、他教科とのつながりについて国語科ではこれまで美術科・音楽科・英語科と学習内容を関連させた実践を行った。

古典の学習では、音楽科とのつながりをもった実践を行った。国語科では日頃、文字言語を中心とした学習指導を中心としているが、音楽科で作品を音声言語によって聞くことにより、聴覚的な面からも作品をとらえる機会が得られ、特に「能」に関しては、総合芸術であるという認識を持つことができた。

文学的文章の学習では、美術科や英語科とのつながりをもった実践を行った。美術科の授業で挿絵に注目させることにより、視覚的な認識の広がりから、文字だけの場合よりも深い読解ができた。また、英文との比較からは、日本語表現の多様さや作品の主題に対する理解が深まった。

これらの実践により、「③多面的、総合的に考える力」が身につくとともに、教科としての思考力・判断力・表現力いずれもが向上したものと考えられる。

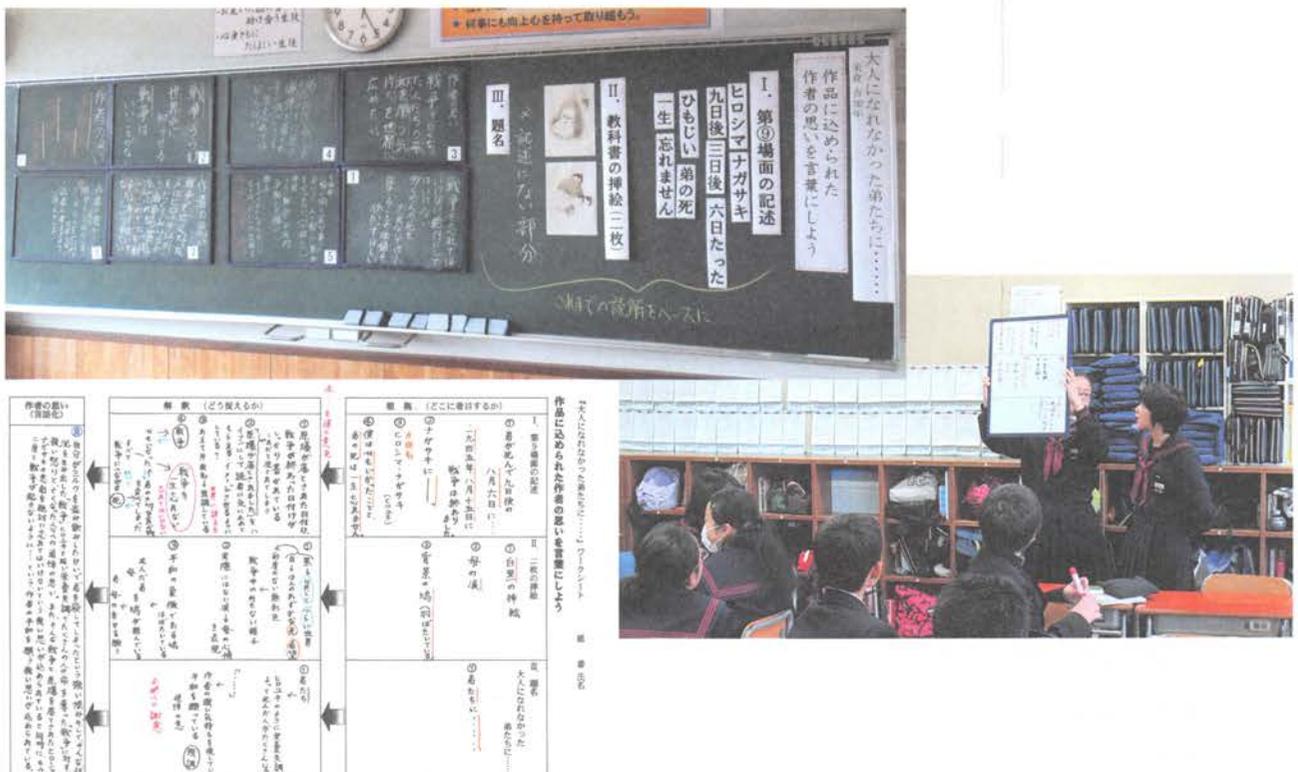
### 3. 成果と課題

1年生では、E S Dの視点に立った学習指導で重視する能力・態度の「③多面的、総合的に考える力」を身に付けるべく、あくまで文章読解を主軸に、物事を多面的・多角的に捉える視点の1つとして他教科との連携を進めた。26年度の成果と課題を受け、連携の機会としては同時期に扱う題材と年度をまたいでその成果が見えるものとの両方を実験的に行った。また、テーマについてもある程度絞り込み、「生物多様性」(理科)、「エコ社会」(社会)、「平和」(美術)の3つを行った。

4月から5月上旬で扱う「ダイコンは大きな根？」という説明的文章では、同時期に理科でも植物を扱い、生物多様性についての学習が進められていたが、その紹介程度にとどまった。

「江戸からのメッセージ」という随筆については、2年生の社会科(歴史)で扱う江戸の町民文化と深く関連していた。そのため社会科の資料集を活用し、文章だけでは想像し難い江戸時代の生活について興味深く読み進め、私たち現代人の生活とも比較しながら自分の考えを持つに至った。

「大人になれなかった弟たちに……」は同作者が挿絵も描いた絵本が原作で、26年度に金沢大学の折川 司先生にご協力いただいた研究を引き継ぐ形で27年度も「美術科」との連携を行った。26年度は「文章と挿絵を比較して気がついたことを書く」という学習活動を通して、文章には描かれていないものを、挿絵を通して感じ取ることができるなど、読解を深める活動として有意義なものであった。27年度は国語科での読解を一通り終えた頃に美術科で同作品を取り扱ってもらった。国語の授業では教科書本文の内容、2枚の挿絵のみから読解を進めた。言葉1つひとつ、挿絵に描かれているもの1つひとつに注目しながら、それらをどう解釈できるか検証していった。また、言語学習の視点から、心情を表す言葉の一覧を資料として提示し、国語辞典を活用しながら作者の心情に最も近い語句を探究する活動を行った。美術科ではさまざまな鉛筆による描き方から学習し、教科書に掲載されていない挿絵を分析し、そこに表されている筆者の思いを考えさせた。さらに文章から筆者の思いを鉛筆画に描くという活動においては、習得した鉛筆による表現と読解とに裏付けされた迫力ある作品が数多く描かれた。



2年生では、持続可能な社会づくりの構成概念「I多様性」、ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度の「③多面的、総合的に考える力」に着目して活動を行った。他教科とのつながりという点では、英語科と連携した授業を二度行った。

いずれも星新一の作品で、「新発明のマクラ」と「おーい でてこーい」という二作品を、国語科では日本語の原作で、英語科では英訳されたものの両方で読ませた。どちらも英語科の教科書に掲載されていたというのが取り上げた理由の一つである。

しかし、英文は原作の直訳ではなく、ダイジェスト版でかなり意識されたものであったが、原作の主題を十分くみ取った英文であると考え、双方で扱うことにした。

「新発明のマクラ」では、英語表現と日本語表現を比較することで、それぞれの表現のしかたの違いを実感でき、言語表現に対する多面的な視点を養うとともに、日本語表現の多様性という点に気づかせることができた。

また、「おーい でてこーい」では、作品の結末部分の訳し方の違いに注目し、それを手がかりに作品の「落ち」の意味を考えさせた。日本語の原作で読んでも中学生にはなかなか理解しにくい「落ち」の部分であったが、意識された英語表現と比較することで、その部分が手がかりとして「落ち」の理解がしやすくなった。この点で、「多面的、総合的に考える力」の育成につながったと考えられる。

この作品は、将来の地球環境を予想して書かれている作品でもあったため、ESDの「未来像を予測して計画を立てる力」にも結びつけるべく、発展的な学習として、作品の結末を踏まえて未来を想定し、物語の続きを書くという活動も取り入れた。

3年生では、持続可能な社会づくりの構成概念「I多様性」、ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度の「①批判的に考える力」、「②未来像を予測して計画を立てる力」、「③多面的、総合的に考える力」の育成に取り組んだ。物語の「羽衣伝説」と能の「羽衣」（謡本）を読んで同じ題材を多面的に分析し、それぞれのエピソードや主題の相違点から浮かび上がる能の特徴を捉えることができた。また、能とはどのようなものであるか、なぜ現在も残っているのかを考えることにより、能や伝統について思考するとともに多様な意見を認める姿勢を育んだ。文章作品の「羽衣伝説」に対し「羽衣」の能は「総合芸術」であることから音楽科の授業へとつなげ、その後の観能教室の鑑賞に対する興味関心を持たせることができた。

ESDに関する研究の2年次にあたる今年度は、他教科とのつながりをもった授業実践を複数回実施した。国語科の立場としては、あくまでも教科の目標を達成するための手段として、他教科からの視点で教材を取り上げてもらったということになる。そのような活動は、双方の教科にとって意味のあるものでなければならないし、興味本位の紹介に終わらせないようにする工夫が必要であろう。

また、教材によってESDの構成概念および能力・態度のいずれに関連付けるのがより適切であるか、より効果的であるか、再検討する必要があると感じた。

教科どうしのつながりを生徒がより強く意識するようになったのが、今年度の活動であったのではないだろうか。今後は生徒自身がより柔軟につながりを見出し、自主的に他教科の学びを国語科の授業に活用したり、国語科の学びを他教科で活かしたりできるようになればと考える。そして、そこにもつながる思考力・表現力・判断力を国語科の授業で育成していきたい。

## 1 題材名 「江戸からのメッセージ」

2 ねらい 文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分のものの見方や考え方を広げることができる。

## 3 学習活動

(1) 本文とスライドから『江戸の暮らし』を知る。

- ・社会科の資料集を活用した江戸時代の人々の暮らしを描いたスライドから、当時の様々な職業、住居の特徴や暮らし方をクイズ形式で紹介する。



- 仏具屋 ● 餅屋(餅はたばこを焼く道具) ● 産物のすし屋 ● 漆器屋 ● 餅屋 ● 煙草売り ● 鳥刺し(安い平の先にもちをつけて、焼を焼かす)
- お菓子を売る人 ● 豆腐・紅麩屋 ● 紅麩屋の旗 ● 高層屋(江戸のコンビニ)
- 牛車を使用して物を運ぶ ● 通札をする人 ● 土声(町内ごとにつくられ、夜になると静められる)
- 自衛隊屋(町の代表者の旗幟、防犯用具が置かれ、若火消しの集合場所にもなった) ● 燈台の修理 ● 瓦葺(江戸時代の新聞)を売る人 ● 燈籠屋 ● お寺を建てするための寄付を募る人



(2) 江戸の暮らしから筆者が受け取ったメッセージを捉える。

- ・江戸時代の生活と現代の生活を比較することで、「物の豊かさ」と「心の豊かさ」について再考してみようという筆者のメッセージを捉える。

(3) 江戸と現代とを比較し、それぞれの長所を挙げ、現代に取り入れたい江戸の暮らしについて考える。

- ・「物を大切に」「もったいない」「リサイクルは当たり前」といった基本的な考え方。
- ・「物を買うときは三度考えて買え」「物を最後まで使い切る(残った灰まで使う)」という生活習慣。
- ・「直し屋」の存在、再生可能な原材料、別の物に作りかえる習慣。
- ・長屋暮らし(協同的な生活)。

## 4 ESDとの関連

## (1) 構成概念

- I 多様性 … 物を大切にし、互いに助け合って生活していく江戸の生活から、現代にも活かせる生活の工夫やものの考え方を導き出すこと。

## (2) 能力・態度

- ③多面的、総合的に考える力 ②未来像を予測して計画を立てる力

## 【教科の目標(評価規準)】

筆者のいう江戸の暮らしの特徴を捉え、自分のものの見方や考え方を広げることができる。

## (3) 教材の「つながり」

- ①ESD関連分野 環境
- ②教科 社会(2年)
- ③題材 「江戸のエコ社会」

## 1 題材名 「大人になれなかった弟たちに……」

## 2 ねらい

文章の記述と挿絵の両方をふまえて、作品の内容の理解を深めることができる。

## 3 学習活動

## (1) 課題1

米倉斉加年の作品「大人になれなかった弟たちに……」を国語科の授業で学習し、美術科でその作品の挿絵について学習してもらい、文章と挿絵を比較して気がついたことを述べさせた。

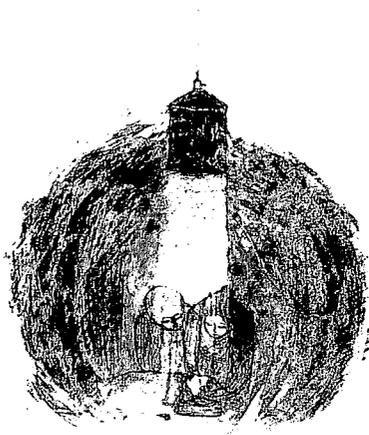
## (2) 問題解決場面

「文章と挿絵を比較して気がついたことを書こう」

文章とその部分に相当する挿絵を比較し、

- ①文章には表現されているが、挿絵には描かれていないもの
- ②挿絵には描かれているが、文章には表現されていないもの
- ③文章と挿絵両方で描かれているもの

という観点で考えさせてみた。文章には描かれていないものを挿絵を通して感じ取ることができるなど、作品の読解を深めるために意義のある活動となった。



十日間くらい入院したでしょうか。  
ヒロユキは死にました。  
暗い電気のしたで、小さな小さな口に綿にふくませた水を飲ませた夜を、  
ぼくはわすれられませんが。泣きもせず、弟はしずかに息をひき取りました。  
母とぼくに見守られて、弟は死にました。病名はありません。  
栄養失調です……。

## 4 ESDとの関連

## (1) 構成概念

I 多様性…文学作品を表現する手段として、言葉、挿絵など、多様な方法があること。

## (2) 能力・態度

## ③多面的、総合的に考える力

【教科の目標（評価規準）】時代背景や人物の描写に関心をもって読もうとしている。

## (3) 教材の「つながり」

- ①ESD関連分野 その他
- ②教科 美術
- ③題材 「大人になれなかった弟たちに……」

## 1 題材名 「大人になれなかった弟たちに……」

## 2 ねらい

文章の記述と挿絵の両方をふまえて、作品の内容の理解を深めることができる。

## 3 学習活動

(1) 作者の思いを言葉にする。

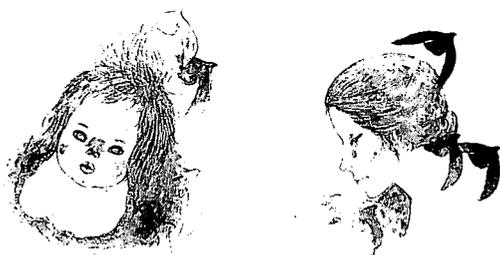
①第9場面(P107L13～最後)の記述から作者の思いを考える。

「弟が死んで九日後…その三日後…そして六日たった…」

「ひもじかったことと弟の死」, 「一生忘れません」

「ヒロシマ, ナガサキ」(生徒ワークシートより)

②2枚の挿絵から作者の思いを考える。



- ・背景にある鳥(鳩?)
- ・鳥の数, 色の濃さ
- ・母の涙
- ・赤ちゃんが無表情
- ・母の髪が少し乱れている
- ・母の頬が少しこけている
- ・母は口を引き締めている(生徒ワークシートより)

③題名から作者の思いを考える。

「弟たち」, 「に」, 「……」

(2) グループで意見交換し, 思いを表す言葉を精査する。

(3) グループでまとめた意見を全体で共有することで, 自身の読解の幅を広げる。

## 4 ESDとの関連

## (1) 構成概念

I多様性 … 文字による表現と絵画(鉛筆画)による表現とを比較し, それぞれの解釈を深めることで, 表現方法の多様性に気づくとともに作品を複数の視点から総合的に捉える力・態度を身に付けること。

## (2) 能力・態度

③多面的, 総合的に考える力

【教科の目標(評価規準)】

登場人物の行動や情景描写から心情を読み取ることができる。

記述・挿絵の両面から, 内容の理解を深めることができる。

## (3) 教材の「つながり」

①ESD関連分野 平和

②教科 美術科(1年)

③題材 「鉛筆画」

## 1 題材名 「新発明のまくら」

## 2 ねらい

日本語と英語の表現を比較することで、日本語の表現の特徴に気づくことができる。

## 3 学習活動

## (1) 課題1

星新一の作品「新発明のまくら」を国語科の授業で読み、英語科の授業で学習したそれを英文に直した作品「The pillow」と比較し、気がついたことを述べさせた。

## (2) 問題解決場面

「和文と英文を比較して気がついたことを書こう」

和文と英文を並記して、その下に気づいたことを記入するワークシートを作成し、自由に記入させた。英語科の授業で普段取り組んでいる英文と和文の比較という意識ではなく、扱う時間が異なる教科だということで、英語と日本語という異なる言語で表現を比較するという意識で取り組むことができた。

☆和文と英文を比較して、気がついたことを書こう。

和 「やれやれ、なんとか大発明が完成した。」

英 "I did it, at last!" "This is a great invention."

英文ではエクスクラメーションマークまでついて、英語でもらった和訳では「やった。ついにやったぞ。」「これは偉大な発明品だ。」と書いてあるのに、きまぐれロボットには「やれやれ、なんとか大発明が完成した。」と、テンションの温度差がとてもある。また、英文や和訳された文はF博士は2回発言されているように書かれているのに、きまぐれロボットには1文でまとめられている。「やれやれ」などはまさしく日本独特の表現で、英語には直せないと思う。

## 4 ESDとの関連

## (1) 構成概念

I 多様性…言語表現には用いた言語による多様性があること。

## (2) 能力・態度

## ③多面的、総合的に考える力

【教科の目標（評価規準）】登場人物の言動や心情を表す言葉（日本語・英語）に着目して作品を読み進めている。

## (3) 教材の「つながり」

## ①ESD関連分野 その他

## ②教科 英語

## ③題材 「The pillow」

1 題材名 「おーい でてこーい」

2 ねらい

日本語と英語の表現を比較することで、作品の理解を深めることができる。

3 学習活動

(1) 課題1

星新一の作品「おーい でてこーい」を国語科の授業で読み、英語科の授業で学習したそれを英文に直した作品「Can Anyone Hear Me」と比較して作品の理解を深めた。

(2) 問題解決場面

「和文と英文を比較して作品の『落ち』を理解しよう」

和文と英文の表現が異なる部分を活用して、作品の結末がどのような「落ち」になっているのかを考える手がかりとした。

さらに、そこから発展させて物語の続きを考え、それを文章で表現させる授業を行った。

使用したワークシート

ある日、建築中のビルの高い鉄骨の上でひと仕事を終えた作業員が、ひと休みしていた。

彼は頭の上で、「おーい、でてこーい。」と叫ぶ声を聞いた。

しかし、見上げた空には、なにもなかった。青空がひろがっているだけだった。

彼は、気のせいかな、と思った。そして、もとの姿勢にもどった時、声のした方角から、小さな石ころが彼をかすめて落ちていった。

しかし彼は、ますます美しくなってゆく都会のスカイラインをぼんやり眺めていたので、それには気がつかなかった。

① It was the stone! ←日本語の原作にはない英文。

① それは 石だった。

(石の説明から結末の意味がわかるように言葉を考えよう。)

『おーい でてこーい』(星新一)より

4 ESDとの関連

(1) 構成概念

I 多様性…言語表現は、用いた言語によって多様なものであること。

(2) 能力・態度

② 未来を予測して計画を立てる力

【教科の目標(評価規準)】英語と日本語の表現の違いを手がかりとして、作品の「落ち」が理解できるとともに、未来を予想して物語の続きが書ける。

(3) 教材の「つながり」

① ESD関連分野 その他

② 教科 英語

③ 題材 「Can Anyone Hear Me」

1 題材名 能「羽衣」
<p>2 ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・物語の「羽衣伝説」と能の「羽衣」の違いを考え、主題を読み取ることによって、物事の本質を捉えようとするができる。</li> <li>・能が現在まで受け継がれてきた理由について実生活・実社会を活かして考えることができる。</li> </ul>
<p>3 学習活動</p> <p>(1) 能について知っていることを出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・例：室町時代に世阿弥によって集大成された（歴史），能面をつけたり謡や囃子がいたりする（形），シンプルで象徴的（特徴），等。</li> </ul> <p>(2) 昔話「天女の羽衣」と能「羽衣」（謡本訳）を読み、違いについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・終わりの部分「天人が男の妻になって～」が能にはないことから、どのような印象になるか、なぜそうしたのかを考える。</li> <li>例：美しい、清らか、舞が強調される、等。</li> </ul> <p>(3) 能「羽衣」の重要な場面（主題）を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章作品としての重要場面と舞台「羽衣」としての重要場面を考え、それぞれの場面を能「羽衣」のDVDで見る。</li> </ul> <p>(4) 問題解決場面 目標「能が現在までなぜ残ってきたのかを考える。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長く残っているものとはどんなものか、実生活と関連させて考える。</li> <li>・能の特徴や金沢に根付いている様子と関連させて考える。</li> <li>・「残るだけの（価値のある）ものだ」「残るほどのものとは思えない」両方の意見を考える。</li> </ul>
<p>4 ESDとの関連</p> <p>(1) 構成概念</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>I 多様性…・同じ題材のものでも、テーマや伝え方に違いがあること。</li> <li>・能についてさまざまな捉え方があること。</li> </ul> <p>(2) 能力・態度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①批判的に考える力</li> <li>②未来像を予測して計画を立てる力</li> <li>③多面的、総合的に考える力</li> </ol> <p>【教科の目標（評価規準）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・物語の「羽衣伝説」と能の「羽衣」の違いから、能の特徴を捉えることができる。</li> <li>・「羽衣」の主題について読み取ることができる。</li> <li>・能が現在まで受け継がれてきた理由について実生活・実社会を活かして考えることができる。</li> </ul> <p>(3) 教材の「つながり」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①ESD関連分野 文化、伝統</li> <li>②教科 音楽科，社会科</li> <li>③題材 「能」（音楽科 3年），「文化の継承と創造」（社会科 3年）</li> </ol>